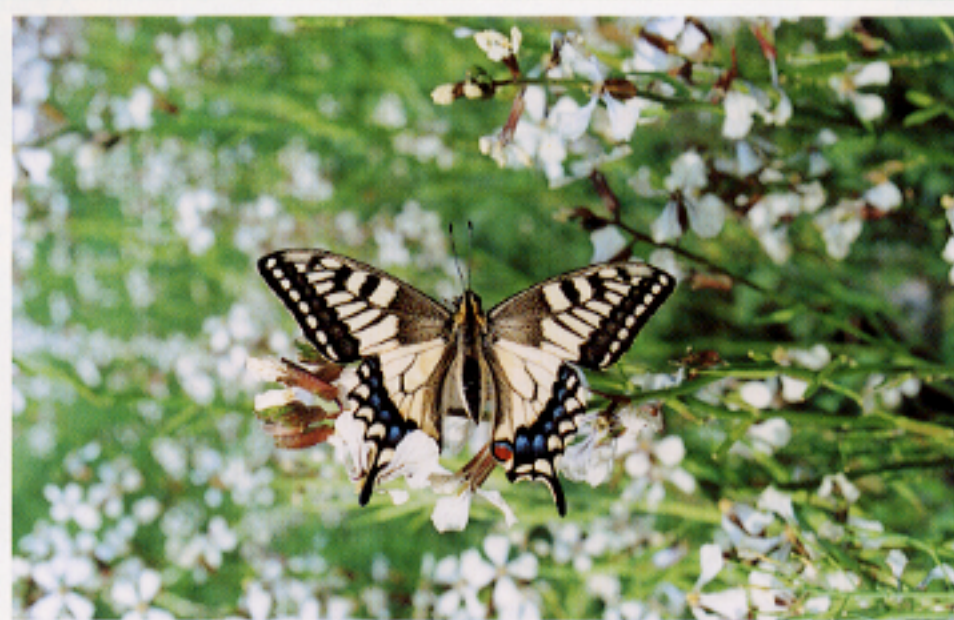


大学の仲間たち



キアゲハ

写真を見て、アゲハチョウかと思った方が多いと思う。もちろん大きさはほぼ同じくらいであるが、全体的に黄色っぽいこと、および前翅の前縁の付け根付近が黒色であることでアゲハチョウとは区別される。二年前の秋号を参照下さい。アゲハチョウは、その黒い部分に黄色いすじがはいっている。幼虫は畑や庭のニンジン、ミツバ、バセリなどの栽培植物を食べて育つので、これらを食い荒らす黒と黄緑のダンダラ模様の幼虫で困った人も多いと思う。野生植物ではシシウドやセリを食べる。大学周辺の畑では幼虫を何回も見かけたことがあるが、私は構内での繁殖をまだ確認していない。しかし、本学には蜜源となる植物が多いためか、数多くが飛来する。学生の研究によると、本学で多く見かけるのは四月中旬～五月末、六月末～八月初め、八月末～九月末だという。すなわち、この周辺では一年に三回このチョウが発生するようである。なお、この春先のチョウは小型であり、夏のは大型で、しかも黒っぽい。

自然環境教育センター 教授

前田喜四郎



奈良教育大学 広報

平成12年11月20日

編集 ならやま編集委員会

発行 奈良教育大学